

## コロナ5類移行 消費意欲高まる

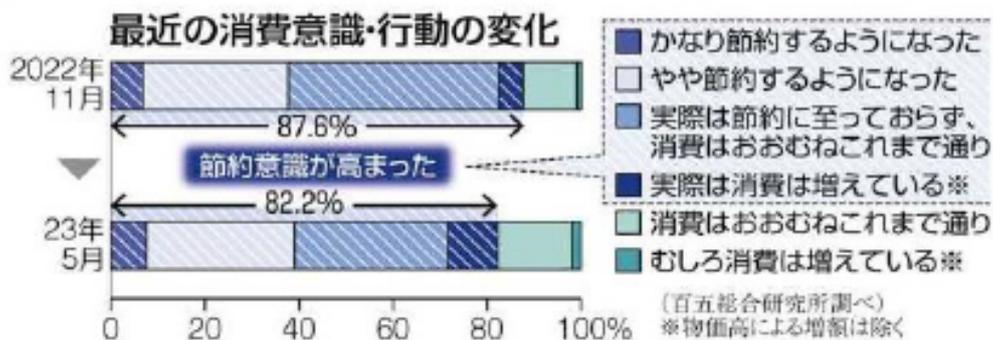
百五総合研究所が五月下旬、県内で働く百九十七人に消費意識と消費行動の変化を尋ねた調査では、最近の物価高や新型コロナウイルス感染症の五類移行などを踏まえて、「節約意識が高まった」と答えた人の割合は 82.2%となり、昨年十一月の調査の 87.6%より低下した。

実際に「節約するようになった」との回答は、「かなり節約」(7.6%)と「やや節約」(31.5%)を合わせて約四割だった。

一方、物価高の中でも「節約意識は特に高まっておらず、消費はおおむねこれまで通り」との回答は 15.7%で、昨年十一月よりも 4.3 ポイント増えた。「節約意識は高まったが、実際は消費は増えている」は 10.7%で 5.5 ポイント上昇。「節約意識は特に高まっておらず、むしろ消費は増えている」は 2.0%で 1.0 ポイント増えた。

「ここ最近、特に消費が増えたもの」として、レジャー費や交際費・人づきあいなどを挙げる人が目立ち、「ぜいたく品」に分類される支出が増える傾向にある。物価高を意識しつつも、新型コロナの五類移行に伴って消費意欲が高まり、節約意識が和らいでいることがうかがえる結果となった。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2023年7月6日